バカな奴らとＦクラス

キッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカな奴らとＦクラス

【Ｎコード】

Ｎ３１００Ｚ

【作者名】

キッド

【あらすじ】

人を信じぬ主人公が明久達Ｆクラスでかわれるのか！？

始まり（前書き）

原作が大分歪みます
嫌なら戻ることをオススメします

始まり

俺は今桜の咲いた坂を上っている
俺の名前は楢　極【なら　きわみ】女みたいな名前？シバくよ
「来たか楢」
「はよざいます西村先生いや、スネーク」
「西村先生と呼べと何回言ったと思っている」
「一万以上」
「とにかくこれが振り分け試験の結果だ」
「掲示板に貼れよ」
「普通はそうするんだがウチは最先端システムを導入した試験校だからなこのやり方もその一環ってわけだ」
めんどくさ
結果は
楢　極・・・・・Fクラス
「何故だスネーク」
「大問1だけ解いて寝ればそうなるだろうが」
そうだっけ？
廊下
「これがAクラス、デカいな、少し覗いてみるか・・・・・どこのホテルだよここは」個人冷蔵庫、個人エアコン、ノートパソコン・・・・・もうFクラスに行こう、がっかりしたくないしFクラス
ガラ
「・・・・・はぁ」
ひどすぎ、座布団、ちゃぶ台、割れた窓
とりあえず適当な席に座る
ガラ
「早く座れこのウジ虫野郎！！」

開口一番が罵倒かよ
「ちょっととうしてもらえますかね？」
誰だ？制服じゃねぇから教師か
「えー、おはようございます。二年F組担任の・・・・福原慎ですよろしくお願いします」
名前書くのを辞めた、何？チョークすら無いの？
これだと設備の不備は我慢しろだろうな、寝よ

「では自己紹介でも始めましょうか」
お、我ながらナイスタイミングだな
「木下秀吉じゃ、演劇部に所属しておる
――と、いうわけじゃ今年一年よろしく頼むぞい」
女？いや名前からして男だろ
「・・・・・・・・土屋康太」
静かだな
「――――です。海外育ちで、日本語は会話はできるけど読み書きが苦手です」
このクラスにも女子はいるのか
「趣味は吉井明久を殴ることです☆」
普通じゃねぇ
吉井明久、大丈夫かねぇ
「はろはろー」
「・・・・・あぅ。島田さん」
あいつが吉井明久かあわれ
「――――です。よろしく」
そんなことを考えてるうちに吉井明久の番になった

「――コホン。吉井明久です気軽に『ダーリン』って呼んでくださいね♪」
『『ダァァーーリィーーン！！』』
おぇ
「失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願い致します」
不愉快になるなら言うなよ
あ、俺か
「楢　極だ。趣味は特にない、好きなものも特にない、嫌いなものは人と五月蝿い事だ以上」
（人なのに人が嫌いって）
「理由は信じてもいずれは裏切られる、だから人は信じない」
「疑心暗鬼と言うやつじゃな」
まぁ当たりだな
「後１つ良いかの」
「なんだ」
「その顔のペイントみたいなものはなんじゃ？」
これか
「小さい頃親父にいれられた」
「納得じゃ」
ガラッ
「遅れてスイマセン。保健室に行ってて」
「ちょうど良かった、姫路さん自己紹介をお願いします」
「あ、はい、姫路瑞希といいますよろしくお願いします」
確か学生次席のはず、何故
「はい！質問です！」
「あ、はい！何でしょう」
「なんでここにいるんですか？」
知らない奴が見れば最低だろうな
「試験中熱を出してしまって」
なるほどな

「俺も熱（の問題）が出てＦクラスに」
「あぁ、化学かあれは難しかったよな」
「弟が事故にあって」
「だまれ一人っ子」
「昨夜彼女が寝かせてくれなくて」
「今年一番の大嘘をありがとう」
凄い言い訳だな

「そこ、静かにして下さい」
「あ、すみまｓ――」
バキィ　ガラガラ

・・・・・・・もろ！！あれだけで壊れるのかよ

先生が換えを持って来るまで俺は寝た

『『『大ありじゃあ！！！』』』
いきなりなんだ！！
「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ。そして代表としての提案だが、ＦクラスはＡクラスに『試験召喚戦争』をしかけようと思う」
無理だな
ＦがＡになど勝てるわけがない
『勝てるわけがない』

『これ以上設備を落とされるなんて嫌だ』
『姫路さんがいたら何もいらない』
予想通りの悲鳴が聞こえる
最後のは違うか
「そんなことはない。必ず勝てる。いや、俺が勝たせてみせる」
もう一度言おう、無理だな
学力が違いすぎる
「そこの赤髪
根拠はあるのか」
「俺は坂本雄二だ聞いてなかったのか？」
「興味ないから寝てた」
「まぁいい、根拠ならある、それを今から説明してやる」
姫路ぐらいしかまともに戦えないだろ
「康太。畳に顔つけて姫路のスカートを覗いてないで前に来い」
「・・・・・（ブンブン）」
ムッツリか、いや、オープンだな
「土屋康太、こいつがあの、寡黙なる性識者（ムッツリーニ）だ」
矛盾発見、オープンなのにムッツリーニ
「姫路のことは説明しなくていいだろう。皆もよくわかってるはずだ」
「私ですか？」
「ウチの主戦力だ」
「木下秀吉だっている」
木下秀吉、演劇部のホープでＡクラスに双子の姉が居る
「俺だって本気を出す」
『坂本って昔神童って言われてなかったか？』
『Ａクラス並みが二人いるってことだよな』
「吉井明久だっている」
シーン
士気が下がった

『誰だ吉井って』
「知らないのなら教えてやる、コイツの肩書きは『観察処分者』だ」
『なら、召喚出来ない奴がいるってことだよな』
「安心しろ、いてもいなくても変わらない奴だ」
「甘いな、観察処分者は召喚獣で雑用をやるため、誰よりも操作技術が高い、戦死はまずないだろう」
うぉー
柄じゃねぇな俺の
「この境遇は大いに不満だろう？」
『当然だ！！』
「ならば筆（ペン）を執れ！出陣の準備だ！」
『オオーーッ！！』
「・・・・・うるせ」
「明久、死者を頼んだ」
「今字が違ったよね？」
「大丈夫だ何もされない、俺を信じろ」
「わかった、行ってくる！」

VSDクラスそしてその後

坂本が戦争の引金を引いてから1日
あの後吉井明久がボロボロで帰って来たのは言うまでもない

「ふぁ～あ、ねむ」
いつもどうり登校していた
途中まではな。
「ちょっとやめてください」
「良いじゃね～かよ学校なんてサボっちまえよ」
朝からナンパか
ドガッ
「朝っぱらからナンパとは暇だな、仕事しろ」
俺がナンパ男を蹴りながら言うと
「ちっ覚えてやがれ！」
捨て台詞を吐いて行った
正直言おう
嫌だ、めんどい
「助かったよありがと」
「通行の邪魔だった、だから蹴った、ただそれだけだ」
「でも助かったよ、ボクは工藤愛子、よろしく」
「楢極、別に覚えなくて良い」
そう言って学校に向かう

「野郎共！戦争開始だ！きっちり死んでこい！！」
『うぉぉー！！！』
死んだらダメだろ

だだだだだ
メンバーが一斉に廊下に出る
「いやー頑張るね～」
「楢！なんで此処にいる」
「Ｆクラス所属だから」
「違くて、なんで戦闘に参加しない」
「俺を信用させろ、Ｄクラスごとき、勝てるよな？」
「当然だ」

どのくらいたっただろうか、時計を見ようとしたとき『勝者　Ｆクラス！』と聞こえた
「勝ったか」

さて、次は参加しますかな
点数は・・・・真面目にやるか。
「楢、勝ったぞ」
「聞こえた、次は俺も参加しよう」
じゃあ帰るか
「明日はテストをやるからな、しっかり勉強して来いよ」
『うぃ～っす』
やる気が感じられねぇ

翌日
テストが終わり、昼休み
「ねぇ、楢君、ちょっといい？」
「吉井明久か、何のようだ？」
「いや、お弁当、一緒に食べない？姫路さんが作ってくれたから」
「断る」
きっぱり断った
群れるのは嫌いだ
「きょ～せ～れんこ～」
意味分かってんのか？

何だかんだで屋上にきた、無論一人奥で食べる
「のう楢よ、おぬしもこっちで食べぬか？」
「自分の弁当があるから断る」
「そんな事言わずにさ～」
しつこいな
ガチャ
「へぇ～どれどれ、うまそうだな
坂本が入ってきた、食った
バタン！ガタガタガタ
は？
「雄二ぃ！」
どうしてこうなった！？
それをみて俺はバレないように屋上から脱出した

その後、坂本達が戻って来た後吉井明久がボロボロで帰って来た
「言い訳を聞こうか」
「予想どうりだ」
ある意味流石だな

さて、帰るか

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3100z/

バカな奴らとＦクラス

2011年12月24日19時54分発行